後期日程

令和6年度個別学力試験問題

小　論　文

（教育学部特別支援教育コース）

解答時間　60分
配　点　100点

注意事項

1. 解答開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入してください。
3. 解答は解答用紙の指定された場所に横書きで記入してください。
4. 問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明，ページの落丁及び汚損等に気付いた場合は，手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 問題冊子及び下書用紙は持ち帰ってください。

問題

次の文章を読んで，以下の問いに答えなさい。

学校コンサルテーションの流れの中には，子どもへの理解を深める段階があります。そこでも必ず出てくる定番の言葉があります。それは「この子は自尊感情※が低い」という言葉です。

困っている子どもを理解するためのケースを討議する会議でも，この言葉が出てこなかった会議は経験がありません。少年鑑別所でも，心理技官によって書かれた少年調査簿には，必ずと言っていいほど「当少年は自尊感情が低い」と書かれています。

これに関しても，私はいつも違和感を覚えます。第一に，色んな問題行動を起こしている子どもは，それまでに親や先生から叱られ続けていますので，自尊感情が高いはずがないからです。「自尊感情が低い」のは当たり前ですし，そう書いておけば外れることはまずないでしょう。

第二に，そもそも「自尊感情が低い」ことは問題なのか，ということです。

我々大人はどうでしょう。自尊感情は高いのでしょうか？　仕事がうまくいかず，自信を失って自尊感情が低いことはあるでしょう。逆に，仕事が軌道にのり，社会的に成功すれば，自尊感情が高くなることもあるでしょう。それでも，社会の荒波に揉まれながら思った通りの仕事ができない，職場の対人関係がうまくいかない，理想の家庭が築けないなど，自信がなかなか持てず，自尊感情が低くなってしまっている大人の方が多いのではないのでしょうか。

だからと言って，ほとんどの人が社会で犯罪を行っている，不適応を起こしているわけでもありません。つまり，自尊感情が低くても社会人として何とか生活できているのです。逆に，自尊感情が高すぎると自己愛が強く，自己中のように見えてしまうかもしれません。大人でもなかなか高く保てない自尊感情を，子どもにだけ「低いから問題だ」と言っている支援者は，(1)矛盾しているのです。

問題なのは自尊感情が低いことではなく，自尊感情が実情と乖離（かいり）していることにあります。何もできないのにえらく自信をもっている。逆に何でもできるのに全然自信がもてない。要は，(2)等身大の自分を分かっていないことから問題が生じるのです。

“自尊感情が低い”といった言葉に続くのは，「自尊感情を上げるような支援が必要である」といった締めの言葉です。こんな文章を見る度，「そもそも文章を書いている心理技官の自尊感情は高いのか」と聞きたくなります。無理に上げる必要もなく，低いままでもいい，ありのままの現実の自分を受け入れていく強さが必要なのです。もういい加減「自尊感情が……」といった表現からは卒業して欲しいところです。

※自尊感情…自己に対する評価感情で，自分自身を基本的に価値あるものとする感覚

（出典：宮口幸治，『ケーキの切れない非行少年たち』，新潮新書，2019年より一部改変）

問 1　下線部(1)について，筆者が「矛盾している」と述べている内容について，200 字以内(句読点を含む)で説明しなさい。

問 2　下線部(2)について，等身大の自分を分かっていないことによって生じる子どもの問題についてあなたはどう考えるか。400 字以内(句読点を含む)で述べなさい。